

# 校名：三重大学教育学部附属中学校

所在地：〒514-0062 三重県津市観音寺町471 電話番号：059(226)5281

記載日：平成28年5月17日 記載者：井上 久 記載者役職：教頭

## 貴校の校風、おおまかな特色について：

木々に囲まれた静かな環境の中で、互いに聴き合い学び合うことを大切にした授業づくりをすすめることを通して、豊かな心を育てようとする学校

「動く！附中生徒」をキャッチフレーズに自主的に動こうとする生徒と、生徒の主体性を支援する教師が、共に活動する場を大切にしながら、自治の力を養おう（育てよう）とする学校

## 貴校の卒業生の活躍状況について：

特に追跡調査等はない。

創立50周年、60周年（昨年、60周年の式典を実施）等、節目の年に行われる関連行事にご参加いただいた方より、近況をうかがったり同窓生の情報を教えていただいたりしている。

### 本校卒業生の具体的な活躍状況

- ・野呂 昭彦（前 三重県知事）
- ・児玉 崇（MIRACLE LINUX 社長）
- ・藤神 敬也（作曲家 編曲家）
- ・井村 正勝（前 井村屋社長）
- ・西野 カナ（本名：加奈子）（歌手）
- ・野田 暉行（作曲家） 等

卒業して間もない高校生が本校に集う「ホームカミングデー」という行事を毎年実施しており若い世代の卒業後の状況について、情報を得ている。

「先輩に学ぶ」というキャリア教育の取り組みを行っている。本校の卒業生を講師に招いて講演をいただいている。

## 貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

特に追跡調査等を行っていない。

本校を転出された先生方は、各市町の学校に戻り、校内研修のリーダー的な役割を担っている。また、その後、市町教育委員会や三重県総合教育センター（県の研修施設）に異動して多くの学校に教科指導の助言・指導を行っている先生も多い。

さらには、市町の教育長として活躍されている方も多い。

本校が公開研究会等の公開授業を行う際には、司会者や助言者として来校いただき、多くの助言をいただいている。

## 魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

本校にあっては、地域のパイロット校として位置付けたいと考えている。例えば、マニアックな研究の意義も分かるものの、地道な研究をコツコツと続け、当たり前のことを丁寧に研究することで、「三重附属へ集えば公立でも通用する先行事例が存在する」状況を実現すべく、平成27年度から改革が始まった。

特に、幼小中一貫教育を1つの柱として、平成24年度から幼小中一貫教育に向けて舵を切り始めたが、そもそも一貫教育には「当たり前のことを丁寧に研究すること」が再現しやすく、自然と学校での中心的な話題となってきた。

具体的には次のような取り組みを進めている。

①地域小中学校の校内研究会に指導助言として招聘されている。

指導と評価の一体化を目指し、校内研究を進める学校に対して、力になっている。

②三重県教育委員会の開催する、研修講座の講師を務めている

学力向上をめざし、全国学力・学習状況調査を意図した学力向上と指導要領の趣旨の実現に向けて取り組んでいる。

更に平成24年度から準備を進めてきた幼小中連携一貫事業にあっては、“餅は餅屋”の言葉に代表されるよう、小学校教員が算数を指導することが最も効果的であることはtrivialである。それなのに“一貫教育”と称して『中学校数学科教員が“算数に乱入”する』のだから、連携一貫、出前授業等、全く以って意味不明である。喫緊の教育課題に、アンテナが作動しなければ、或いは、日頃から教育界の動向に意を注ぎ学習指導要領を忠実に実行する等の気概がなければ、一貫教育は理解不能な取組であろう。また、『一貫教育を本気で“意味不明”だと主張する』ようでは、教育学部職員としては如何なものか、そもそもの資質を疑われる程の踏み絵でもある。

また、教科指導(算数・数学)の側面から一貫教育を考察したとき、各単元や各領域の関連を示した鳥瞰図を作成することが一般的だが、『スピード感としては“今更、鳥瞰図か？”のレベル』であり、教科書会社ホームページをはじめとして、鳥瞰図にかかる研究成果は、世に溢れているとこ

ろである。

このような流れの中、大学当局からの要請を受け、附属四校園では平成 24 年度までに準備委員会を立ち上げ、先行研究を進め、平成 25 年度から本格的な一貫教育の研究を始めた。平成 27 年度は算数・数学グループで、カリキュラム研究として、『小中学校で、敢えて同じ教材に着目し、子どもの発達段階に応じた適切な指導目的を設定し、具体的な指導方法を検証すること』を目指し、適切な教材の開発と指導法の確立を狙った。

なお、教材として参考にした資料は、平成 27 年度全国学力・学習状況調査(以下、27 学調と表す)、小学校算数 B 5 である。学調を、学習指導要領や同解説資料を具現化した文部科学省からのメッセージであると理解したとき、次の特徴に着目することで、異校種間での指導の充実が期待できると考えたからである。

①小学校算数科では、「B 量と測定」、「C 図形」の 2 領域を行き来する指導計画は斬新であること。

②中学校数学科では、領域間横断は一般的だが、活用力の育成にまで位置付けていなかったこと。

したがって、27 学調を経験した小学校 6 年生と、図形を教材に初めて論証に出会う中学校 2 年生を対象にするのが効果的であると判断して、中学校数学科教師の『乱入』を実現し、小中連携・一貫教育の第一歩を踏み出したりしている。

#### 地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

基本的には、附属学校園においては、大学採用はなく、三重県境区委員会との交流人事であるため、自ら請うて異動する先ではなく、教育委員会への異動、文部科学省への出向などと、附属学校園への異動について、同等の意識が漂っている。従って、勤務した際に、〇年を目途にがんばるなどという目標は各自が立てるものの、市町教育委員会の意向も強く影響する。

しかし、附属中学校を終えて、各市町に帰るときに、どのようなキャリアを背負い、どのような分野の専門家として、際立っているかが求められていることも事実であり、各職員の研修・研鑽は欠かせない状況になっている。

## 附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

本校の存在意義は、次の3点だと考えている。

### 1. 教育研究

- ・ 大学、学部における研究への協力
- ・ 教育の今日的な課題について、学部と連携して研究を進めることで、その本質にせまる。

### 2. 教育実習

- ・ 教育の実際に分れることで、教育の意義や教育することの喜びを体験させる。
- ・ 教科指導の原理と方法を具体的に理解させ、教科指導に必要な知識や技能を習得させる。
- ・ 教科外の指導の原理と方法を具体的に理解させ、教科外活動の指導に必要な知識や技能を習得させる。
- ・ 学級経営について理解させ、学級経営に必要な知識や技能を習得させる。
- ・ 勤務に必要なことからの理解や責任ある態度を養わせる。

### 3. 地域のパイロット校

- ・ 喫緊の教育課題について先行研究を行い、地域の学校に発信する。
- ・ 公立の先生方が多く集まり、授業づくりについて忌憚なく話し合いができる、研究協議会を行う。